

私の推薦する天然記念物

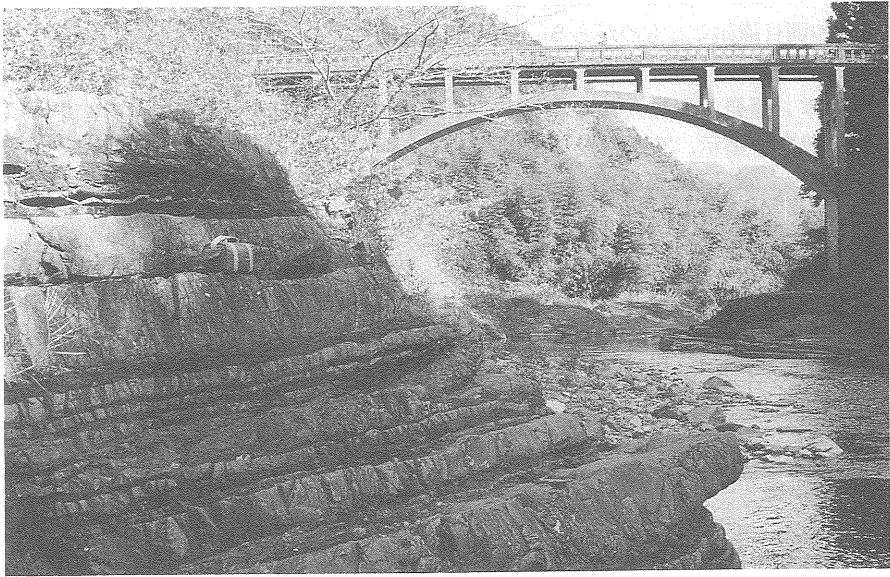


写真1 跡倉逆転層. 背景は万年橋. 1992年11月佐藤撮影.

跡倉逆転層

群馬県南西部の下仁田町付近は、ネギとコンニャクの産地として有名であるが、地質学的にみても、内帯と外帯の要素が複雑に入り組んだ地域として興味深い。白亜系の跡倉層はこの地域に比較的まとまった分布をなし、跡倉の河床で見られる礫岩や地元で“根なし山”と呼ばれる大崩山基底部の断層がよく知られている。これらも天然記念物として一考の価値があると思われるが、ここでは南牧川河床で見られる跡倉層の逆転層の露頭を紹介しよう。

この露頭は、跡倉の上流約1.7 kmの南牧川左岸にある(写真1)。下仁田から南牧村勸能行きのバスに乗り、^{みやしろ}宮室で下りて南牧川にかかる万年橋をわたると、上流側約50 mにある露頭に容易に下りることができる。この逆転層は、筆者の一人内田が1959年夏みつけたもので(内田, 1961)、砂泥互層の砂層の級化層理が逆転しているのが明瞭に観察される(写真2)。砂粒が上位ほど粗くなっており、地層が堆積後に逆転した事が判るのである。同様の現象は、近くの支流=山の神沢などでも見られ、この付近の跡倉層が構造的に逆転している事が確かめられた。この地層は白亜紀(後期?)に堆積し、白亜紀-古第三紀の変動で逆転したと推察される。

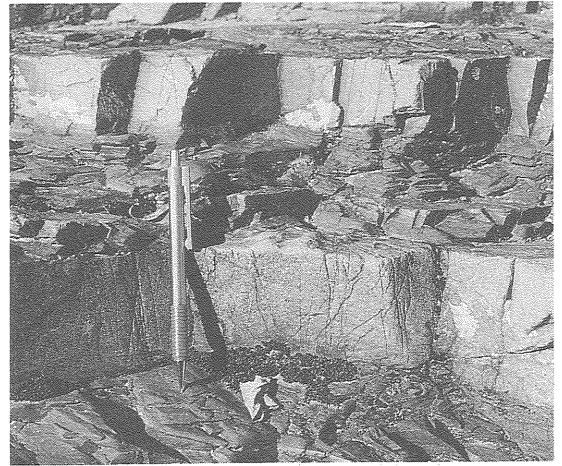


写真2 砂層(灰色)は上位ほど粒度が粗くなっているのが観察される。

内田の発見後、この露頭は、地層の逆転を示す好例として巡検コースに組み入れられ、多くの人が訪れてきた。山の神沢の露頭が護岸工事により現在は見られなくなっているだけに、写真に示した露頭を天然記念物に指定して、後世に残したいものである。(元成蹊高校 内田信夫・地質調査所 佐藤興平)

文 献

内田信夫(1961): 群馬県・下仁田付近の地質—その1, 四つ又山押しかぶせ構造について—。成蹊論叢 創刊号, 3-18.